

公表	事業所における自己評価結果【児童発達支援】
----	-----------------------

事業所名	聖隷こども発達支援センターかるみあ				公表日	2026年3月26日		
	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	13	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数を分ける工夫をしている</li> <li>・机などを廊下に出してスペースを作っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数にあったスペースが必要（特につき組）</li> <li>・運動遊び等活動の内容によっては狭い</li> <li>・フリールームが不足している</li> </ul> ⇒必要に応じて2つの保育室を活用し、クラスを2グループに分けて小集団活動を展開している。また、運動遊び等の広いスペースを要する活動時には、一時的に机や椅子等を廊下へ移動させることで、安全かつ十分な活動空間を確保している。長期休暇期間においては、放課後等デイサービスとの共用スペース調整が重要となるため、事前に活動内容に応じた空間配置を計画的に設定し、適切な療育環境を維持していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	10	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアさんに頼っている。</li> <li>・子どもの人数や様子に配慮した配置にする</li> </ul> ⇒基準値を上回る職員配置を行っているが、個別対応の優先度が高いケースが重なる際など、状況によっては人員不足を感じる場面がある。限られた人的資源の中で最大限の支援効果を上げるため、活動内容の構成や職員の適正配置について、日々の現場状況に応じた柔軟な検討と再構築を継続する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	18	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関が広くてフラットでよい</li> <li>・明るくて平面</li> </ul>	⇒今後も、お子様が安心かつ主体的に活動できるよう、各クラスの特性や発達段階に応じた環境設定を継続的に実施する。視覚情報の整理や動線の確保、刺激のコントロールなど、物理的環境を個々のニーズに合わせて最適化することで、日々の生活のしやすさを追求していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日清掃があり清潔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもトイレが臭う時がある</li> <li>・夏は部屋の温度が高いため運動遊びの時等は温度を下げたい</li> </ul> ⇒児童用トイレに扇風機を設置し、効果的な空気循環による衛生環境の向上を図る。夏季においては、活動内容や時間帯に応じてエアコンの温度調節を細やかにを行い、快適な室内環境を保持する。一方で、乳幼児期の汗腺の発育を適切に促す視点から、活動を通じて適度に発汗を促す場面を設けるなど、お子様の健康的な身体づくりと体温調節機能の習得を両立させた環境設定に努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めばえやおおそらの部屋を活用している</li> <li>・他クラスと連携を取り使用している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋が少ない</li> <li>・会議や面談で部屋をしており空いていない</li> <li>・長期休みは使用できる部屋が限られる</li> </ul> ⇒お子様の活動範囲や経験が限定されないよう、活動場所の確保を含めた詳細な活動計画を事前に策定し実施している。施設内の限られた空間を最大限に活用し、動線や環境をあらかじめ設定することで、お子様が主体性を持って多様な経験を積み重ねられるよう、計画的な療育環境の構築に努めている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日案や支援計画で振り返りをしている</li> <li>・職員同士が話し合いをしている</li> <li>・定期的に会議が行われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が参画している意識は薄い</li> </ul> ⇒日々の支援を振り返る時間を確保するため、職員間で計画的な実施を互いに働きかけている。当日の確保が困難な場合でも、翌日に実施するなどの工夫をしている。今後は、振り返りが「支援の質を向上させる不可欠なプロセス」であるという認識を職員一人ひとりが持ち、より主体的に取り組める風土づくりを推進していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	0	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の意見を把握する機会はある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善に繋がっているかは不明</li> </ul> ⇒保護者評価の結果を「事業計画会議」において全職員で共有・分析し、次年度の具体的な取り組みや支援方針へ反映させている。保護者のニーズを組織的に把握し、計画の立案から実行、次なる改善へと繋げるサイクル（PDCA）を徹底することで、満足度の高い施設運営を追求している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談やアンケートを実施</li> <li>・職員間ではできている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が業務改善に繋がっている実感はない</li> </ul> ⇒職員同士で意見を出し合う場を定期的に設け、課題や改善案はできるものからすぐに実行することを大切にしている。現在は上長主導の改善が中心となっている面があるが、今後は職員一人ひとりが目の前の対応に留まらず、「なぜその課題が起きたのか」という一歩踏み込んだ視点を持ち、より良い支援のためのアイデアを自ら提案し、全員で検討して行動に移せるような主体的な組織づくりをさらに進めていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	18	1	0	・外部の評価はよく受けている	・評価を業務改善に繋げていく ⇒今年度は「福祉サービス第三者評価」を初めて受審し、外部専門機関による客観的な視点から事業運営の評価を受けた。受審を通じて明確になった指摘事項については、速やかに改善策を講じ、日々の支援や組織体制の見直しを行っている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	19	0	0	・多種多様な研修や勉強会がよく開かれている	⇒今後も職員一人ひとりの支援技術および専門性のさらなる向上を図るため、個々の経験や課題に合わせた多角的な研修機会を計画的に提供する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18	1	0	・連携のもと作成しているため、適切に行われている	・どのように公表されているか不明 ⇒職員意見を反映ながら作成・更新し、ホームページ上に公表しているが、全職員への浸透には至っていない現状があるため、改めて公表内容や作成意義を職場会議等で再周知を図る必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	18	1	0	・複数の職員で情報を共有しているため、多角的にみたアセスメントになっている ・日々の状況や面談を通して作成されている	⇒お子様や保護者様の願いを丁寧に汲み取り、保育士、言語聴覚士、作業療法士等の職種が話し合いを重ねて、一人ひとりに合った「個別支援計画」を作成している。それぞれの専門的な視点の一つにまとめることで、お子様の発達や個性にぴったりの無理のないプログラムを組み、ご家族の想いを大切に質の高い療育につなげている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	1	0	・クラス会議で意見を出し合っている ・担任、児童発達支援管理責任者、専門職が話し合っており作成している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	4	0	・それぞれに必要な支援が行われている ・計画に沿った支援をしている	・フリーの職員と共有したり、統一した支援をするのが難しい場合がある ⇒クラス担任以外の職員とはリアルタイムでの情報共有が困難な場面もあるが、支援開始前には必ずその日の支援方法や留意事項を共有し、一貫した対応ができる体制を整えている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	3	3		・ツールに対しての知識が不足してわからない ⇒施設内勉強会等を通じてアセスメントツールの習得に励んでいるが、職員間での理解度や習熟度にまだ差があるのが現状である。今後も継続的に学びの機会を設定する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	1	1	・チームでの話し合いの下、適切に実行されている	⇒5領域の視点から具体的な支援内容を考え、個別支援計画に明記している。日々の活動で見せる何気ない姿や成長のサインを大切に、「クラス会議」で職員同士が知恵を出し合うことで、その時々のお子様にも最適した、具体的な支援方法を検討している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16	1	2	・担任同士や専門職と相談している	⇒クラス会議において、月のねらいに沿った具体的な活動計画を作成している。活動の中でお子様が見せた反応や変化を丁寧に捉え、必要に応じてその都度内容を修正し、翌月の計画へと繋げている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0	2	・子どもの成長や発達段階に応じて、活動のレベルを上げている ・複数の職員の意見を取り入れている ・行事や季節も考えて立案している	⇒クラス会議を通じてお子様の日々の姿を共有し、個々の変化に合わせた次の活動内容を検討している。季節行事やクラス目標を取り入れた多様なプログラムを展開する一方で、お子様の特性や状況に応じて、あえて同じ内容を反復して取り組む時間を設けている。活動のルーチン化により「次に何が起こるか」という見通しを立てやすくすることで、お子様の安心感から主体的な活動参加へと繋げている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	18	0	1	・個々や活動に合わせて、集団・個別活動を組み合わせている	⇒お子様の状況や発達課題に応じて、集団活動と個別活動を効果的に組み合わせ支援を展開している。また、より集中的な配慮が必要な場合には、専門的支援計画に基づいた個別支援を実施するなど、一人ひとりの特性に最適な環境を選択することで、着実な成長を促す体制を整えている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	18	1	0	・フリーの職員にも、活動の内容や分担を共有している	⇒活動開始前には、その日にクラスへ入る職員間で活動内容や個別の支援方法を共有し、各自の役割分担を明確化している。担当が異なっても「一貫した関わり」ができるよう情報の足並みを揃えることで、お子様がどの職員に対しても安心して心を開けるような、安定した支援体制の構築に努めている。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	1	1	・毎日振り返りを行い日案に記入している ・子どもの姿や効果的な支援方法を共有している	・細かい話までできない時もある ⇒クラスの状況により詳細な振り返りが困難な場合もあるが、当日中もしくは翌朝には必ず振り返りの時間を確保し、支援内容や課題を共有している。お子様の小さな変化を逃さず翌日の支援へと確実に反映させ、日々の療育の質を維持・向上させる継続的なサイクルを構築できるよう努めている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18	1	0	・日々の支援を記録して次の支援に繋げている	・業務に追われて書けないこともある ⇒日々の業務状況により、詳細な記録の作成が遅れる場合もあるが、そのような際にも職員間の口頭による情報共有は欠かさず実施している。お子様の小さな変化や活動の留意事項をチーム全体で情報共有をすることで、安全で一貫した療育を提供できる体制を維持出来るよう努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0	2	・毎月、支援計画を元に子どもの姿を評価している ・年間でモニタリングの時期が決められている	⇒毎月作成する「サマリ記録」を通じて一ヶ月の支援内容を多角的に振り返り、その成果や課題を次月の具体的な取り組みへと繋げている。この月ごとの記録を大切に積み重ねることで、半年ごとの支援計画の見直しを「確かな根拠に基づくもの」にしている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	1	1		⇒サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者をはじめ、クラス担任や保育所等訪問支援担当職員など、お子様に関わる複数名の職員で出席している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	1	2	・保育・教育機関とは連携している	・保健・障害福祉機関とは連携が不十分 ⇒地域の園や学校等とは積極的な情報交換を行い、一貫した支援体制を構築できている。医療機関については、作業療法士等のリハビリ職を中心に専門的な連携を実践しているが、現状では一部のお子様の対応に留まっている。今後継続的に連携を図る中でネットワークの拡充に努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	0	1	・地域の園で生活することを意識して支援している ・園の見学に同行したり、書面にてその子の特性などを共有している	⇒就園や就学に向けた見学には職員が同行し、実際の環境を確認しながら園や学校での生活イメージを保護者様と共有している。また、必要に応じて「サポートノート」を保護者様と共に作成し、これまでの支援の経過やお子様の特性を言語化している。これらのツールを活用し、移行先との共通理解を深め、環境が変わってもお子様が安心して自分らしく過ごせるような「切れ目のない支援」の実践に努めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	0	1	・保護者の希望に応じて、書面にて子どもの情報を共有している ・必要に応じて見学や面談を行っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	1	3	・互いの施設を見学する機会がある	・連携が目に見えない。支援方法などについてもう少し情報共有ができるとよい。 ⇒児童発達支援センターとして「自立支援協議会」の運営を担い、今年度は現場の職員が地域の他事業所を見学する機会を設けた。一部の職員による参加に留まったものの、自立支援協議会や研修等の機会を通じ、関係機関との連携の基盤を構築している。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	0	4	・外部研修に参加する機会がある ・専門職から助言をもらう機会が多い	⇒今年度は「福祉サービス第三者評価」を初めて受審し、専門的な視点からの助言を真摯に受け止め、さらなる支援の質向上に向けた具体的な改善に着手している。また、静岡県や磐田市が主催する外部研修にも職員を積極的に参加し、個々の専門性を高めることで、組織全体の支援力の底上げと、地域ニーズに応える質の高い療育体制の構築に努めている。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13	2	4		⇒「自立支援協議会」の運営を担い、行政や他センターとの定期的な打ち合わせを通じて地域全体の支援力向上に努めている。協議内容については職場会議で共有は行っているが、打ち合わせの内容自体が現場の職員が参画可能な具体的なアクションにまで繋がっていないため、職員の周知が不十分な点が課題である。今後は職員一人ひとりが地域の動向を身近に捉え、地域の中核機能の役割を深めていけるよう、今後も継続的に情報発信を図る。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12	4	3	・並行通園、交流会、園庭開放、行事など様々な機会が確保されている	⇒近隣園との交流活動や合同防災訓練を継続し、地域社会との顔の見える関係づくりに努めている。また、「園庭開放」や地域住民を招待した行事を通じ、園児と地域の子どもたちが自然に触れ合える貴重な交流の場を創出している。近隣園との直接的な交流については、双方の状況により回数に限られる面もあるため、今後は対面での活動に加え、Web等を活用した「オンライン交流」も選択肢に入れ、安定的かつ継続的な地域連携の形を模索していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18	0	1	・送迎時や連絡帳を通して、子どもの様子を共有している	⇒日々の送迎時や連絡帳を通じてお子様の活動の様子を共有するとともに、内容や状況に応じて「対面で直接対話する機会」を積極的に設けている。文字や短時間の伝達だけではこぼれ落ちてしまう保護者様の不安や喜びを丁寧に汲み取り、双方向のコミュニケーションを深めることで、ご家庭との信頼関係の構築に努めている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	1	3	・グループキラキラにて保護者同士や先輩ママと情報を共有している	⇒年1回の「ペアレントプログラム」の実施に加え、テーマ別の「プチ座談会」を設定することで、保護者様が自身の興味やニーズに合わせて選択・参加できる環境を整えている。現状、参加者が固定化する傾向にあることを課題と捉え、今後はより幅広い層に届くよう、保護者様のニーズを丁寧に汲み取った企画立案や、個別への積極的な働きかけを実施していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	1	2	・契約時に行っている	⇒契約締結時はもとより、毎年の「新年度説明会」において支援内容や運営に関する変更事項を詳細かつ丁寧に説明している。法改正等の制度変更があった際には、速やかに職場内での共有と研修を実施し、職員一人ひとりが正しく理解した上で保護者様へ説明できる体制を整えていく必要がある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	18	0	1	・子どもや保護者の声を聞くように心がけている ・計画を立てた後、面談にて確認している	⇒支援計画の立案時にはお子様や保護者様の想いを確認している。また面談時には書面を提示しながら説明を行い、保護者様の意向を確認した上で、支援計画の署名をいただいている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18	0	1	・支援計画について保護者に説明、最終確認する機会を設けている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	18	0	1	・グループキラキラにて先輩ママに質問する機会があった ・定期的にまたは必要に応じて面談がある ・日々保護者の話を聞き支援を行っている	⇒テーマ別の「プチ座談会」や「教育講演会」を企画し、子育ての悩みや知識を共有できる保護者同士の学びと交流の場を定期的に創出している。また、年に数回の「個別面談」を確実に実施し、お子様の園での様子や成長の喜び、ご家庭での課題を丁寧に共有している。またお兄さんお姉さん先生」を企画し、きょうだい児が活動に参加し、共に交流できる機会を年に数回設けている。現在は年上のきょうだい児との関わりが中心となっているが、今後は「弟・妹」にあたる小さなお子様への支援も充実させるべく、園庭開放の機会を活用したい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	1	1	・グループキラキラやきょうだい先生にて交流する機会がある	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	0	1	・すぐに管理職に相談している	⇒保護者様から相談の申し出があった際は、迅速かつ誠実な対応を徹底している。内容に応じてクラス担任のみならず、児童発達支援管理責任者や管理者が同席・対応する体制を整えており、多角的な視点から助言や解決策を提示している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	17	1	1	・コドモンで配信している ・写真の掲示や販売にて発信している	・クラスや全体のおたよりは少ない ⇒一昨年よりおたより形式から「コドモン」の写真販売機能へと移行し、クラスの活動内容を画像と文章の両面から視覚的に分かりやすく発信している。一方で、写真販売時以外の情報発信については頻度が少なく不定期な側面があることを課題と考えている。今後は、保護者様がより日常的にお子様の成長やかるみあでの取り組みを把握できるよう、発信の頻度や内容を精査し、安定的かつ質の高い情報共有体制の構築を図っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	1	1	・鍵付きの棚で管理している ・個人情報保護に関する意識は高い	・職員間で意識に差がある ⇒職場会議等を通じて個人情報保護の重要性を継続的に共有しているが、職員個々の認識に差がある。何が個人情報に該当するかという基本に立ち返り、具体的な事例を用いた研修を反復して実施することで、職員一人ひとりの情報管理意識を高められるように努める。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	1	1	・その児にあった対応をとっている	⇒お子様や保護者の方々に伝わりやすい丁寧な情報発信を心がけているが、外国籍の保護者の方に対しては、まだ十分なサポートが行き届いていない面がある。今後は翻訳ツールの活用や図解を取り入れた資料を増やすなど、どのご家庭も不安を感じることなく、かるみあの想いやお子様の成長を分かち合える環境づくりに、一つひとつ丁寧に取り組んでいく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	18	0	1	・地域の人も参加できる行事がある ・園庭開放の日を設けている	⇒今年度は、地域住民を招待した行事を年3回開催し、施設へ気軽に足を運んでいただける交流の機会を創出した。あわせて定期的な「園庭開放」を実施することで、子どもから大人まで多世代が自然に集える場を提供している。次年度もこれらの取り組みを継続し、地域に深く根ざし、誰もが安心して立ち寄れる開かれた施設としての役割を果たしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	1	0	・避難訓練が定期的に行われている ・マニュアル作成されている	・家族に周知しているかは不明 ⇒各種安全マニュアルを策定し、「安全計画」についてはICTツール（コドモン）を通じて保護者へ公開している。防災訓練等の具体的な取り組みについても、年に数回、写真付きで活動内容を報告し、安全への意識共有を図っている。一方で、詳細なマニュアル自体の周知は不十分である点を課題と捉え、万が一の際の対応を保護者様とより確実に共有できる仕組みづくりを検討する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	0	0	・毎月、様々な想定避難訓練を行っている	⇒業務継続計画（BCP）を策定し、災害および感染症対策の訓練をそれぞれ年2回実施している。加えて、毎月1回の防災訓練を行い、有事の際も迅速かつ冷静に対応できるよう万全の備えを講じている。正規・パートを問わず全職員が主体性を持って訓練に臨むことを組織の課題として捉えており、今後も実効性の高い訓練を積み重ねることで、一人ひとりの責任感と対応力を培い、お子様の命を守り抜く組織づくりを徹底していく。

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	18	0	1	・保護者から聞き取ったり、職員間で共有したりしている ・対応が必要な児をリスト化している	⇒年度初めに、全職員間で各お客様の服薬状況や持病、アレルギー等の情報を詳細に確認・共有している。緊急時に迅速かつ正確な対応ができるよう、重要な情報を網羅した「緊急対応リスト」を作成し各クラスの目につきやすい場所に、具体的な対応マニュアルと共に掲示している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	18	0	1	・アレルギーの有無を確認し、対応している	⇒食物アレルギーのあるお子様については、利用開始前に医師の指示書をもとに必ず個別面談を実施し、詳細なアレルギー情報の把握と共有を徹底している。提供時には、他のお子様と異なる色の食器を使用することで「視覚的な識別」を図るほか、配膳時には厨房スタッフとクラス担任による「ダブルチェック」を確実にしている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	1	0	・安全対策委員会を中心に研修等を行っている	・安全計画を認識していない ⇒「安全計画」を策定し、それに基づいた防災教育や訓練を実施している。年度当初の「新年度説明会」にて保護者へ丁寧に説明するとともに、ICTツール（コドモン）上で常時閲覧可能な状態を整えている。一方で、職員自身の安全計画に対する認識に不足があることを組織の課題として捉えている。今後は、職場研修等を通じて計画内容の徹底した周知を図ることで、全職員が「安全計画」を深く理解し、日々の支援や保護者への説明において、高い防犯・防災意識に基づいた行動が取れる体制を構築していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	2	3		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	0	1	・毎週申し送りにてヒヤリハットを共有している	⇒毎月の職員会議や毎週木曜日の申し送りにおいて、ヒヤリハットや事故報告を共有する機会を定例化している。他クラスの事例を自クラスの危機管理に活かす取り組みが進む一方で、特定のお子様による同種の事象が繰り返される傾向にあることを重い課題として捉えている。今後は、対応する職員が交代しても確実に「再発防止策」が機能するよう、個別の特性に応じた具体的な対応手順の明文化や、共有の仕組みを再構築し、組織全体で事故の再発防止を徹底していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17	1	1	・研修やアンケートが行われ、職員も意識できている	⇒毎月の職員会議や事例検討会を通じ、虐待防止および身体拘束廃止に関する研修を継続的に実施している。現在、身体拘束を必要とするお子様は不在であるが、万が一必要性が生じた際も、法令に基づいた厳格な手続きを遵守することを組織全体で再確認している。また、不適切な関わりを防ぐため、具体的な事例を用いた検討の場を繰り返し行い、万が一懸念される場面があった際には、職位を問わず職員同士が即座に声を掛け合える風通しの良い職場づくりに努めている。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	1	3	・契約時に書面を通して説明を行い、保護者の了承を得ている		